

# 令和元年度 学校自己評価システムシート (熊谷市立吉岡中学校)

目指す学校像	確かな学力を身に付け 心豊かなたくましい生徒の育成
--------	---------------------------

重点目標	1 よく学ぶ生徒の育成 2 心豊かな生徒の育成 3 健康でたくましい生徒の育成
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				令 和 元 年 度 評 価 ( 2 月 1 2 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	熊谷市の教育施策である学力日本一を目指すため、基礎基本の定着・授業力の向上・言語活動の充実が課題である。全国学力学習状況調査では、県平均以上であるが、市内では中盤である。	1 基礎・基本の徹底 2 授業規律の徹底 3 ねらいを明確にした授業の実践 4 言語活動の充実 5 くまがやラグビー・オリパラプロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉岡検定の実施</li> <li>ラウンドシステムの考え方</li> <li>学習習慣の確立</li> <li>くまなびスクール実施</li> <li>学習規律「よしおか」の実施</li> <li>授業開始時刻の厳守</li> <li>毎時間のねらいの提示</li> <li>導入・発問・学習形態の工夫</li> <li>少人数指導の実施</li> <li>主体的・対話的で深い学び</li> <li>生徒の活動時間を増やす。</li> <li>教科横断的内容の視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年100%の達成</li> <li>全学年・全教科で実践</li> <li>家庭との連携</li> <li>参加者の出席率80%以上</li> <li>全教科で実施</li> <li>チャイムであいさつ100%</li> <li>提示率100%</li> <li>生徒満足度80%以上</li> <li>実施率80%以上</li> <li>学校研究課題として実施</li> <li>各教科70%の実施</li> <li>各教科で教科間の関連づけた視点を見つける(各教科年間5つの分野を発見)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉岡検定 96%の定着</li> <li>全教科で子どもと丁寧に接することができた。</li> <li>74%の家庭で学習の習慣化</li> <li>くまなびスクール73%参加</li> <li>学習規律「よしおか」の実施と授業開始時刻の徹底100%</li> <li>ねらいを明確にした授業93%</li> <li>生徒満足度92%</li> <li>少人数指導実施75%</li> <li>主体的・対話的で深い学び、活動時間の増加 93%</li> <li>教科横断的な視点は明確になっていない。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉岡検定は国語・数学で実施できたが、定着率が100%に達成出来なかった。学習指導研究推進組織の「家庭学習研究部」の取組を通し、基礎基本の定着を徹底していきたい。</li> <li>言語活動の充実に関しては、学校研究課題の推進を通して実践し。各教科で視点を定めて実施出来るよう工夫していきたい。</li> <li>教科横断的な視点について指導案に明記することで、職員の意識を図っていきたい。</li> </ul>
2	1つの小学校から進学してくるため友人関係が固定化するとともに、コミュニケーションの能力が低く細かなトラブルが多い。幅広い教育により、人間関係を充実させる必要がある。	1 時を守り、場を清め、礼を正す 2 命の教育・心の教育の推進 3 スキル教育の充実 4 いじめ撲滅運動の展開 5 インクルーシブ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会時の無言整列</li> <li>無言清掃</li> <li>道徳的価値を深める授業実践</li> <li>人権旬間の実施</li> <li>コミュニケーション能力の向上</li> <li>元気なあいさつと返事</li> <li>きめ細やかな日常観察と教育相談の実施</li> <li>定期的なアンケートの実施</li> <li>交流学級・共同学習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100%の実施</li> <li>80%の実施</li> <li>各学年3回の実施</li> <li>道徳実施35時間以上</li> <li>年2回の実施</li> <li>100%の実施</li> <li>教育相談年2回実施</li> <li>月1回の実施</li> <li>保護者の要望に添えるよう面談を実施(年3回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会の開始 100%実施</li> <li>清掃の取組 96%</li> <li>各学年内で共通の授業実践が平均3回実施</li> <li>道徳の実施 100%達成</li> <li>人権旬間2回実施</li> <li>スキル教育各学年で3回実施</li> <li>教育相談年2回実施</li> <li>生活アンケート11回実施</li> <li>担任と特別支援コーディネーターとともに教育相談実施3回</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会や授業の開始時刻を守る意識は高く、自主的に行動出来ていたが、朝読書の開始時刻についてさらに向上させていきたい。</li> <li>コミュニケーションスキルの向上を目指し、SCの作成したスキル教育を実施することができ、子どものコミュニケーション能力が向上した。教育課程に位置づけ、実施していくことが大切であると感じた。</li> </ul>
3	昨年は、埼玉県体力向上優良校表彰の機会を失うなど、基礎的な体力が次第に下降している。また、寝る時間や起きる時間が遅く、基本的な生活習慣が十分に身につけていない生徒も見られる。体力のさらなる向上を目指していきたい。	1 くまがやラグビー・オリパラプロジェクトによる体力向上の推進 2 健康教育と食育の充実 3 主体的な部活動への取組 4 安全行動の習慣化と事故防止の徹底 5 地震・竜巻等の自然災害や不審者対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題をふまえた授業の実施</li> <li>「汗をかく授業」の取組</li> <li>生活習慣の改善</li> <li>家族と一緒に朝ご飯の奨励</li> <li>目標設定と計画的な取組</li> <li>自らの命は自ら守る意識</li> <li>緊急地震速報の活用</li> <li>対応マニュアルの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト総合評価95%以上(A+B+C)</li> <li>100%の実施</li> <li>HQCシート年2回実施と公開</li> <li>朝ご飯摂取率 98%以上</li> <li>計画表のホームページへの掲載(ガイドライン遵守)</li> <li>避難訓練の迅速な行動</li> <li>生徒の交通事故0</li> <li>小中合同避難訓練(引き渡し訓練)実施 年1回(秋実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト総合評価95%以上(A+B+C) 85%</li> <li>汗をかく運動実施100%達成</li> <li>HQCシート2回実施</li> <li>朝ご飯摂取 78%</li> <li>部活動計画表掲載 65%</li> <li>ガイドライン実施 100%</li> <li>避難訓練実施年3回、集合時間は1分短縮</li> <li>生徒交通事故は 0件</li> <li>小中合同避難訓練順調に実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストを年2回実施し、体力向上を図ることができたが、もう一歩である。授業時間内で汗をかかせる運動量をさらに向上し、一人一人の課題に応じた体力向上を目指したい。</li> <li>朝ご飯の摂取率は、HQCシート実施中は向上するものの、普段の状況は大きく変化していない。家庭を巻き込み、向上させていきたい。</li> <li>避難所としての学校のあり方を考えていきたい。</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日	令 和 2 年 3 月 2 4 日
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員一人一人が生徒一人一人に真摯に向き合い、組織的に指導がなされているため、保護者をはじめ地域社会の学校を見る目が良好である。</li> <li>いつ会ってもあいさつが素晴らしく、無言集会なども続けられ、時・場・礼が徹底された規律ある学校生活が送れている。</li> <li>生徒が素直で前向きに物事に取り組んでおり、知・徳・体のバランスのとれた生徒が順調に育っていると感じる。</li> <li>本人のやる気をおこす事ができるよう、目標をしっかりと持たせて取り組ませ、わかる楽しさ・学ぶ喜びを味わわせてほしい。</li> <li>保護者のアンケート結果が高くなっている。小学校との連携を高め、9年間を見通した取組を実践していきたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>急速な変化を続ける時代を生きる子どもたちに、主体的に考える力をつけさせ、他者との価値観共存など、豊かな心を醸成する努力を期待したい。</li> <li>保護者が吉岡中の教育活動に対して全幅の信頼を置き、人権教育が指導のベースとなっていることを感じられた。</li> <li>行事に参加したときに、話を聞く態度やあいさつのかたなど素晴らしいと感じた。先生方が一人一人の生徒を理解しようという姿勢が子どもに伝わっていると感じた。</li> <li>ボランティアやサロンの交流等で、地域の方とふれあうことで、心豊かな人間作りが行われていると感じた。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭などの学校行事や部活動での活躍など、身近で見る子どもの姿が素晴らしい。また、生徒相互の人間関係も良好で自主的・主体的な取組にいつも感動している。</li> <li>安心安全に関する取組が積極的に行われ、地域の宝として、中学生の活躍を期待していきたい。</li> <li>先生と生徒の信頼関係が築けていることがうかがえ、先生方の努力に感謝したい。</li> <li>生徒の健康教育について、家庭との連携を深めることができるよう、組織的に推進してほしい。また、子ども同士で切磋琢磨出来る環境を工夫し、小中学校の連携を生かしながら、健康教育を進めてほしい。</li> </ul>	